



国労せんだい

No. 2715
2016年3月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

春闘勝利に全力を

地方委員会を確認

地方本部は2月20日、仙台市内において、第127回定期地方委員会を開催した。委員会で出席した委員の真摯な討論を経て、2016春闘を始めとした当面する闘争方針など全ての議題が承認され、取組みの意思統一が図られた。

要求獲得に向け行動を！

委員会は中島副委員長の挨拶で開会し、議長には村上委員（岩沼駅連合分会）を選出した。村上議長は就任にあたり、営業職場の問題点、とりわけ矢継ぎ早に進められている業務委託の現状とエルダー再雇用の問題（出向先がない、提示が遅い等）について述べ、サービスや労働条件の低下につながる委託化に反対し、春闘と結合したストを背景とした運動を作り上げようと呼びかけた。



委員長大沼あいさつ

国労を引き継ぐために汗をかこう

続いて地本を代表し、大沼委員長は、以下の挨拶を行った。（要旨）
労災死亡。渡辺さんの事故から間もなく3ヶ月。労組として労災事故への

反省と二度と繰り返さないための取り組みの強化を決定し、安プロでの議論を経て、仙台支社に10項目の申し入れ。原因と安全対策について議論し追及していく。委員会の課題は中央委員会、エリア委員会で決定した具体的取り組みの意思統一。春闘情勢。
実質賃金の4年連続マイナスがアベノミクスの実態。一方、大企業は300兆もの内部留保、景気の循環がここでストップ。最低賃金、欧米諸国は千

地方の柱は「一人一要求」から現場長との話し合い、大衆集会、大衆行動に組織の五割結集と合わせ、全組合員が参加する16春闘組織拡大。昨年は20歳、30歳代の4人の若い組合員が誕生、互いに刺激を合い合い拡大に。若い仲間が国労を引き継ぐために拡大に向け汗をかこう。
4月の新入社員配属に向け、各機関は準備を。委託事業が拡大の一途。委託先の仲間と交流し、労働者意識の醸成と労組の必要性を感じ取れる取り組みと窓口作りを進める。
政治課題。安倍政権は戦争する国作りに大きく踏み出した。立憲主義、民主主義、平和主義を否定する安倍政権は許されない。
震災原発から5年、今尚収束せず。風化や加害者が逃げ得にならないよう、被災者に寄り添い、「国労フクシマ」交流を本部と連携し強化する。
キーワードは憲法で保証されている基本的な人権の尊重。沖縄の民意と国の安全保障、外交、原発エネルギー政策と原発被害者の構図。国家のために国民が犠牲になることは現憲法下ではない。参議院選挙は戦争法の廃止に向けて負けられない闘いであり理解と協力を述べ、忌憚のない委員

- 1. 30 地本女性部定期委員会
- 2. 3 第5回執行委員会・第3回春闘事務局会議
- 2. 8 第33回東日本本部拡大委員会
- 2. 14 第64回地本アスベスト対策委員会
- 2. 15 第6回地方執行委員会・第2回闘争委員会
- 2. 20 第127回定期地方委員会
- 2. 21 第51回安プロ・第32回各支部業務部長会議
- 2. 21 止めよう辺野古埋め立て・東北アクション

の発言を要請した。来賓のあいさつを頂いた後、財団法人国労会館仙台地方部の労働講座として、宮城県平和労組会議菅原晃悦事務局次長より、「政治情勢と労働組合の役割」と題した講演を受けた。さらに東日本本部菊池委員長からは、エリア委員会で決定された運動方針と16春闘の取り組み状況等を報告された。（別掲）

その後、原子書記長が大月12日に要求申し入れ、3月16日回答指定日。要求獲得に向けて職場からいかに押し上げ組織強化・拡大に結びつけるか。第33回拡大委員会では、仕事・安全総点検運動と一人一要求運動を通じて全組合員が春闘に参加し現場改善など自らの職場を改善する取り組みと連動させ、この間積み上げてきた仲間との信頼を深め、国労加入を大胆に訴えることを確認。努力が拡大に結びつかなくとも、班や分会組織を強化することに。スト配置の戦術要請は千葉・高崎両地本、宮城県支部からは直接要請に。仙台地本を通じて郡工支部からも要請。拡大委員会でも仙台の委員から要請の発言が、戦術委員会で議論の最中、本部が明

会以降の経過と方針を提起し、委員からの質疑と執行部からの答弁、書記長集約が行われた後、全ての議題が拍手で承認された。続いて委員会宣言が提案、承認され全ての議事が終了。村上議長が退任の挨拶を述べた後、歌川副委員長が閉会の挨拶をし、大沼委員長の団結願を以て終了した。

【委員の発言と答弁、集約等は別途掲載予定です】

らかにする。戦術は組織末端の活動状況と連動しており、組織活動と組合員の状況を把握せずには高い戦術を行使することは組織団結を破壊しかねない。班・分会の活性化から全組合員参加の春闘の構築を目指し奮闘を要請する。

旅客・貨物共に好調な業績の一方、旅客会社は重大インシデントや大規模な輸送障害を連続して発生させ、信頼を大きく失墜させた。背景は進まぬ技術継承、安全意識の低下、要員不足にある。安全安定輸送の確立、労働条件の改善、向上の闘いと合わせ、関連会社との労働協約締結の取り組みを進める。

JR東日本ステーションサーブスは昨年7月、水戸・千葉・高崎を統合。国労

来賓（敬称略）
社会民主党 相沢 和紀
日本共産党 角野 達也
☆平和労組会議 菅原 晃悦
全交運共済生協 橋本 昭一・伊賀 泰
☆国労議員団 石川 建治
国労東日本本部 菊池 忠志

東日本本部菊池委員長あいさつ

組織強化・拡大。昨大会以降、現在11人の加入。旅客・貨物の一括和解以降では、202人と。本部指令から3年が経過。立ち止まりや後退は加入した組合員に組織も運動も継承できない。全体で一歩前に出る議論と行動を。意識調査アンケート、4月30日まで取り組むので他労組、若手に声掛けを。
16年春闘。1万5千円ベア含む重点8項目、2

東日本菊池委員長

16年春闘。1万5千円ベア含む重点8項目、2

組織強化・拡大。昨大会以降、現在11人の加入。旅客・貨物の一括和解以降では、202人と。本部指令から3年が経過。立ち止まりや後退は加入した組合員に組織も運動も継承できない。全体で一歩前に出る議論と行動を。意識調査アンケート、4月30日まで取り組むので他労組、若手に声掛けを。
16年春闘。1万5千円ベア含む重点8項目、2

強化すること。スト配置の戦術要請は千葉・高崎両地本、宮城県支部からは直接要請に。仙台地本を通じて郡工支部からも要請。拡大委員会でも仙台の委員から要請の発言が、戦術委員会で議論の最中、本部が明

会以降の経過と方針を提起し、委員からの質疑と執行部からの答弁、書記長集約が行われた後、全ての議題が拍手で承認された。続いて委員会宣言が提案、承認され全ての議事が終了。村上議長が退任の挨拶を述べた後、歌川副委員長が閉会の挨拶をし、大沼委員長の団結願を以て終了した。

【委員の発言と答弁、集約等は別途掲載予定です】

らかにする。戦術は組織末端の活動状況と連動しており、組織活動と組合員の状況を把握せずには高い戦術を行使することは組織団結を破壊しかねない。班・分会の活性化から全組合員参加の春闘の構築を目指し奮闘を要請する。

旅客・貨物共に好調な業績の一方、旅客会社は重大インシデントや大規模な輸送障害を連続して発生させ、信頼を大きく失墜させた。背景は進まぬ技術継承、安全意識の低下、要員不足にある。安全安定輸送の確立、労働条件の改善、向上の闘いと合わせ、関連会社との労働協約締結の取り組みを進める。

JR東日本ステーションサーブスは昨年7月、水戸・千葉・高崎を統合。国労

加速する駅の業務委託

駅業務の委託化は、この間毎年2回程度の提案があり、いわゆる「エルダー再雇用先の確保」との名目で施策として進められてきた。しかし中間駅のみならず、郡山駅や福島駅、山形駅などの主要駅でも委託化が進められ、委託駅は70駅（JR41駅）にも及びその勢いは止まらないが、多くの問題を抱えている。

仙台駅では既に東口と新幹線南口の改札業務が委託され、16年4月1日から仙台駅の出札業務を委託の提案がされた（現時点では実施見送り）。

言いつまでもなく仙台駅は東北地方最大の駅。新幹線乗車人員では東京駅、大宮駅に次ぐ第3位の規模であり、JR本体が運営すべき重要な駅と考えるが、委託化が安全・安定輸送とサービス品質の低下を招くことは必至だ。

委託しているのは駅業務に限定されており、運転に関する業務は行うことが出来ない。そのため運転事故は無論の事、踏切支障やポ

東日本本部のアンケート

国労東日本本部は、「職場実態と意識調査」のアンケートを昨年11月から、国労東日本本部のホームページ上で取り組みをしています。

これはJR東日本会社に働く全社員、関連会社社員を対象者として、仕事や勤務実態、人間関係や組合活動などを中心に、会社で取り組む活動（マイプロ・提案など）についての考えも尋ねています。

なお、取り組み期間は16年4月30日迄としており、現在はQRコード（右下）を印刷したカードを対象の皆さんに配布し協力してもらいよう取り組みを進めています。

国労東日本本部 H・P
http://www.e-nru.com/



会社へのねらいはコストダウン（低賃金の労働者に置き換えるだけ）だが、我々は安全・安定輸送とサービス品質の低下をもちたらず業務委託には反対であり、見直しを強く求める。【昌】

会社は速やかに交渉を！

昨年11月24日に組合員である渡辺純一さんが、大型重機の点検整備作業中に体を挟まれ労災死亡してから早くも3ヶ月が経過した。

組合は、昨年12月24日会社に対し、事故原因を明らかにすることなど、10項目について申し入れを行った（安全問題に関する重要緊急申し入れ）。



会社が示した「当面の対策」の内容（保守用車等の点検整備はエンジンを停止して行う。やむを得ずエンジンを開始して操作する場合は、作業員が動作範囲にいないことを確認して操作すること。またやむを得ずエンジンを稼働しながら機械の稼働箇所に入る必要のある場合は、物理的に挟まれない措置「間隔保持材」を行うこと）は、現場の作業実態を掌握していない、「取っ付けた」対策のそりりを免れない。

現場では、「エンジン切っても動く可能性がある。油圧がなくなると自重で下がる可能性や、

賃金改善申入れ

バス東北と東北ロジへ

国労東北協議会（佐々木力議長）は2月22日、ジェイアール貨物・東北ロジスティクスに対し、4月1日以降の賃金改善を求める申し入れを実施した。対応した役員は、「貨物の子会社であり、本体がよくならないければ、自社も持たない。体力もなく後日回答する」と述べ、組合側も努力するように要請した。

仲間の異動

また2月16日、地方本部と東北自動車支部は、JRバス東北に対し、「仙台申17号」を提出し、バス東北に対する賃金改善の申し入れを実施した。

- 2月1日付（出向）
 - 佐藤 博美さん 福島駅 TSS金谷川駅
 - 鈴木 正弘さん 福島駅 TSS藤田駅

地本に対する要請書等

今春闘時期において、各級機関から「ストライキを背景にした闘いの要請」等が、地方本部を中心に寄せられているので掲載する。なお要請があったことについては、上部機関に伝えている。

- 地方本部宛
 - 1月14日付 郡工支部貨物分会
 - 1月25日付 郡山工場支部 貨物福島分会
- 1月26日付 貨物宮城分会
- 2月4日付 仙台建築分会
- 2月8日付 仙石線駅連合分会
- 2月11日付 仙台宮城野運輸区
- 中央本部及び東日本本部へ直接激励・要請行動
 - 2月5日 宮城県支部

退職のお知らせ

- 12月31日付
 - 今野 和弘さん 仙台電力区
 - 今野 義弘さん 岩沼駅連合
 - 大山 雅之さん 郡山駅連合
 - 佐久間 豊さん 貨物宮城
 - 佐藤 和夫さん 貨物宮城
 - 嘱託 仙台臨海
 - エルダー退職
 - 大沼 清一さん 仙総運輸
 - テクノ新幹線
 - 千葉 長一さん テクノ小牛田
- 1月31日付
 - 鈴木 靖さん 仙台保線区
 - 横山 静夫さん 仙総運輸
 - 佐藤 一雄さん 会津若松地区
 - 佐藤 勝さん 仙台保線区
 - 仙建工業
 - エルダー・嘱託退職
 - 加藤 和幸さん 貨物宮城
 - 東北ロジ
 - 眞屋 春人さん 福島・設備
 - 仙建工業